

(7) 生と性に「むきあう」私たちのプロジェクト

性教育・Sex Education

Ai Yiran, Du Xiaoxu, Haruna Shiga, Huaman Palomino Katia Sara, Wang Yimeng

性教育は、個人が健康と安全の保障された生活を送る上で必要不可欠な項目を担うものである。性の権利を保障すべく、全体的な内容を取り扱う包括的性教育（CSE: Comprehensive Sexuality Education）の概念が提唱される一方、日本、中国、ペルーの現状を中心として行った文献調査からは、教育カリキュラム、「性」という概念の文化的・社会的受容の観点から特色が見られ、性に関わる内容の適切な教育方法や機会の発展が求められていることが分かった。本プロジェクトでは、性教育の実態と多様な実践形態の可能性を調査することを目的に、岡山大学で開催された「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)デイズ」にて、ワークショップ型イベントを開催し成果の分析を行った。得られた成果・課題の分析から、文化的背景を始め、多様性を活用するインタラクティブな交流機会と包括的性教育のキーコンセプトの親和性を中心に、より柔軟な視点から性に関わる内容を取り上げ、学びの機会の拡大に貢献する観点について検討を行った。

Keywords : 包括的性教育, DE&I, ワークショップ, 国際交流, 世代間交流

1. プロジェクトの概要と背景

性教育は、個人が健康と安全の保障された生活を送る上で必要不可欠な項目を担うものである。性の権利を保障すべく、全体的な内容を取り扱う包括的性教育（CSE: Comprehensive Sexuality Education）の概念が提唱される一方、性に関わる内容の適切な教育方法や機会の保障について課題が報告されている。

当PBLプロジェクトは、中国・日本・ペルー、3か国出身のメンバーで結成されたチームの国際性を活かし、包括的性教育の重要性の検討に加え、次章で取り上げる包括的性教育のキーワードの内、「人間関係」、「価値観、人権、文化、セクシュアリティ」、及び「健康とウェルビーイングのためのスキル」に焦点を当て、実践を行った。岡山大学で開催されたD&Iデイズにて、性について考えるワークショップ型イベントを行い（図1）、性教育の現状や実践に関して知見が得られた他、より幅広い教育的文脈で成果を生むための課題が発見される結果となった。



図1 イベント中の活動の様子

2. 性教育について

2-1 包括的性教育

包括的性教育は、若い世代に性や健康に関する正確で年齢に適した情報を与えることを目的とし、人権としての性教育の位置づけを基本とし、人間関係などを含めた体系的な内容を取り扱う。世界保健機構は、8つのキーコンセプトとして「人間関係」「価値観、人権、文化、セクシュアリティ」「ジェンダーの理解」「暴力と安全確保」「健康とウェルビーイングのためのスキル」「人間の体と発達」「セクシュアリティと性的行動」「性と生殖に関する健康」が挙げており、家族生活、人間関係、合意と自己決定権、妊娠、感染症など幅広いトピックが含まれる¹⁾。

2-2 性教育の現状

包括的性教育が提唱される一方で、この概念と現状の実践には差がみられる。質の高い性教育を年齢に適した形で行う方法が模索されており、社会的側面に焦点を当てると、性に関するトピックをタブー視する風潮も根強く残っている。

この点について、中国、日本、ペルーの性教育を中心に文献調査を行った。まず、性教育の重要性を唱える根拠として、社会的状況の影響が共通して見られた。情報化社会の進展により若者の性に関する情報へのアクセスがより容易になっている現状と若者の性の意識の開放化や性の生理的発達が早まっているという指摘²⁾や、避妊手段へのアクセス・望まない妊娠・性的虐待など社会問題への懸念³⁾が挙げ

られる。

一方で、現状の性教育の基盤となっているカリキュラム構成とその実践には、各国の特色が見られる結果となった。日本では、学習指導要領を基盤として、「体育科、保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて」性に関する指導を行う体制となっており⁴⁾、中国では、「生命安全与健康教育进中小学课程教材指南」が2021年に出され、各学校段階での性教育の内容の扱いで注意すべき点を定めている⁵⁾。ペルーでは、性教育のために設定された科目はないが、Personal social(就学前・初等教育)、Desarrollo personal, ciudadanía y cívica(中等教育)といった個人と社会に関連した科目の設定があり、tutoría(初等・中等教育)と呼ばれる課外活動の領域で、避妊・妊娠など性教育のトピックも取り扱う。しかし、教育内容、教材、教員養成等の面から、性教育の向上のための課題が挙げられている⁶⁾。

3. ワークショップ型イベントの実施

3-1 イベント実施の背景

包括的性教育に関する調査を踏まえ、チームの持つ国際性を活かし、「人間関係」及び「価値観、人権、文化、セクシュアリティ」の2つの領域のキーワードを取り上げ、実践を行うこととした。また、「月経(生理)」「避妊」など、タブー視される傾向のある話題の学びについて検討するべく、「健康とウェルビーイングのためのスキル」を実践のキーワードとして加えることとした。

3-2 イベントの概要

こうした背景を踏まえ、実践の形態をワークショップ型イベントに決定した。11月に岡山大学で開催されたD&Iデイズの関連企画として、キャンパスで学生生活を共にする文化背景・専門分野の多様な構成員が集い、交流をベースに、性教育について考え学ぶ企画を目指した。

イベントは、LIFE EVENT & USの名称のもと、2023年11月15日、岡山大学附属中央図書館のラーニングコモンズの一面を使用して開催された。参加者の概要は、表1の通りである。なお、イベント参加者の内、教職員から1名、中国出身の留学生からの参加が6名あった。

イベントは、アイスブレイクセッションを皮切りに、恋愛関係をテーマとしたディスカッション、各国の性教育事情の紹介、生理用品・避妊具を用いた体験活動を行ったほか、書籍・包括的性教育のコンセプトの紹介を行う展示を準備した。それぞれの企画の詳細を次の表に示す(表2)。

表1 LIFE EVENT & US 参加者の内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	空欄	計
男性	1	4	-	-	1	-	-	6
女性	-	2	-	1	1	1	1	6
計	1	6	0	1	2	1	1	12

表2 各企画の内容

アイスブレイク	“LIFE GAME”と名付けたゲームの実施。簡単なルールのゲームを行いながら、人生の各年齢段階を想定したライフプラン・人生観などに関連する質問を選択して答える。
ディスカッション	エピソードの紹介をもとに、好意の表現方法など、恋愛をテーマにディスカッションを行う。
各国の性教育事情の紹介	PBLチームメンバーの出身である、中国・日本・ペルーの性教育事情について、プレゼンテーション形式で紹介を行う。
生理用品・避妊具の体験活動	生理用品(ナプキン3種類、タンポン、月経カップ、コンドーム)と下着・男性器の簡易模型を配布し、グループで装着方法などを体験しながら確認する。

4. 成果

4-1 分析方法

イベントの成果の分析を目的に、イベントの映像記録と参加者を対象に事後アンケートを行った。アンケートは3つのパートから構成されており、質問項目は表3のとおりである。なお、調査は匿名で行われ、回答を望まない項目については無記入での提出を可能とした。映像記録は、参加者の発言を中心に文章に起こし、参加者の交流、各活動への取り組みの様子を中心に分析を行った。

4-2 イベント全体を通して見られた成果

イベント全体を通して、活動への積極的な参加が見られ、参加者同士の交流も多くみられた。事後アンケートからも、肯定的な印象を受け、個人の学びにつながった参加者が多かったことが読み取れる(図2)。

また、本イベントで最も印象に残った部分(複数回答可)として、「アイスブレイク」を選ぶ回答が4件、「ディスカッション」が5件に対し、「生理用

品・避妊具の体験」が7件で選択件数が最も多い結果となった。

表3 アンケートの質問項目

Part 0: About you	
出身・性別・年齢・学部/専攻	自由記述
Part 1: General Questions about Sex Education	
「性」という言葉を耳にしたとき、どんな言葉を思い浮かべますか？(該当するものに丸をつけてください・複数回答可)	選択式(複数回答可) 「恥ずかしい・楽しい・難しい・禁止・幸福・悲しい・人権・健康・悪い・良い・肯定的・否定的・その他」
性教育に関連する活動やイベントに参加したことがありますか？	はい・いいえ (はいと答えた方) どのような経験でしたか？
包括的性教育について聞いたことがありますか？	はい・いいえ
Part 2: Feedback on the Event	
全体的に、イベントを楽しむことができた。	5段階
イベント中、困難を感じることがあった。	5段階
イベントを通して新しい学びがあった。	5段階
またこのようなイベントがあれば参加したい。	5段階
今日の活動で印象に残ったのはどの部分ですか？	「ゲーム、ストーリー+ディスカッション、生理用品等の体験、展示、その他」から選択
Part 3: Your Feelings after Event	
イベントに参加してみて、性教育、包括的性教育について話すことは重要だと思いますか？	5段階
そのように思う理由を教えてください。	自由記述
性やセクシュアリティに関連する話題について学んだり話したりする際、このイベントの形式は役に立つと思いますか？	5段階
そのように思う理由を教えてください。	自由記述
コメントや提案等	自由記述
※5段階での回答は、「1: 決してそう思わない、2: あまりそう思わない、3: どちらでもない、4: 少しそう思う、5: とてもそう思う」から選択する形式	

アンケートの回答

(N=12, 一部回答を抜粋、「1: 決してそう思わない」～「5: とてもそう思う」による5段階での回答)

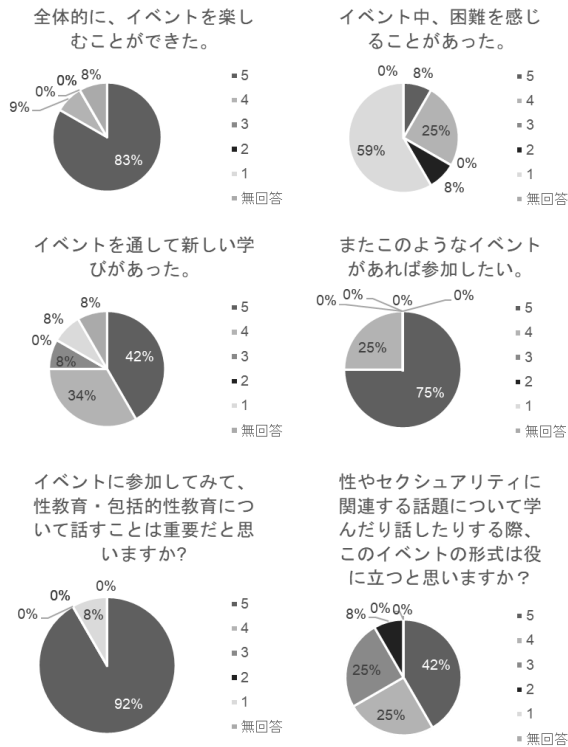


図2 アンケートの回答

5. 考察

5-1 イベントテーマ: 「性教育」

事後アンケート内で、性に対するイメージを訪ねた結果、「楽しい」「人権」「健康」「肯定的」というキーワードを挙げる傾向が参加者間で見られた。一

方で、「難しい」「恥ずかしい」といった否定的印象を与えるキーワードも複数の参加者によって選択されていることが確認できる(図3)。

また、参加者のバックグラウンドについて、半数が包括的性教育について聞いたことがあると回答した。性教育に関連する活動やイベントへの参加経験について、「ある」との回答が3件あり、それぞれ「障害者の性について」「性に関する研修会」「性教育に関する講義を受けた」となっている。

「性」という言葉を耳にしたとき、どんな言葉を思い浮かべますか？(N=12, 複数回答可)

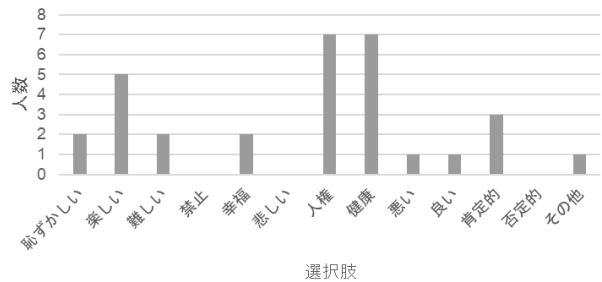


図3 性に対するイベント参加者の印象

5-2 イベントの設計

年代、国籍、所属など、各方面からの参加があり、参加者同士が初対面であるケースも多くあったが、参加者間の積極的なやり取りがイベント全体を通して見られた。ネームタグ等の準備、会話、アイスブレイクの時間の確保、活動ごとのメンバーのシャッフルなど、参加者の関係づくりのための工夫が機能したようである。

このようなイベントの雰囲気が醸成されたことにより、参加者の多様な属性が十分に発揮される成果となった。

5-3 各パートの活動の様子

各国の恋愛事情についてディスカッションを行った際には、文化・性別・年代といった、複数の観点から特徴を発見し、報告する参加者の様子が見られた。ある参加者から、「(日本・中国出身の学生が自身のグループにいるため) 国の差があった半面、世代差もあるんだということが面白かった」という発言があったように、参加者の属性が多様であったことで、議論の交流を通して複数の属性に関する相違点が着目された。

前述したように、最も印象に残った部分として「生理用品・避妊具の体験」を挙げる学生が多数であったが、ここでは参加者をグループに分け、使い方など既存の知識を活用しながらモデルを使ってそれぞれ着用する形式をとった。その結果、使い方を説明したり、他の参加者に製品に触れてみるよう促し

たりなど、イニシアティブを取る参加者を中心に、それぞれの参加者が製品に触れ、体験をする様子が見られた。

参加者からは、体験を通して新たに疑問が生じる様子や、分からない点が明らかになる場面が見られた。具体的な場面として、「生理用ナプキンの装着位置」「コンドーム装着時の先端部分の処理」「タンポン・月経カップの使い方」について、グループの参加者同士で教え合い確認する場面があった。特に、「タンポン・月経カップの使い方」について疑問が浮かんだ参加者が多く見られ、イベント終盤で、参加者全体で簡易で作成した模型を活用して、使用方法を確認する時間を設けることとなった。その結果、タンポンの設計上の安全面、月経カップの衛生面の処理、生理の貧困、生理用品の質や種類の発展などのトピックが、続いて参加者から質問や意見が挙げられた。

この点について、事後アンケートに寄せられたコメントでは、「生理用品の使い方が分かった(女性)」「集団内で話し合うことで性について分からない点を明確にしたり互いに教え合ったりすることができると思った(男性)」などの記述が見られた。簡易的な模型を使って、参加者同士で教え合いながら、実際に製品を着用するといった体験を通して、学びが生じ、自身の知識を振り返る契機となったことがうかがえる。

6. 課題と今後の展望

ワークショップ型のイベントの実施として、一定の成果があった一方で、複数の観点から今後の課題が挙げられた。

まず、性・性教育に関する印象と理解について、アンケート調査からは、包括的性教育に関して、耳にしたことのある参加者が半数であったことが明らかになったが、包括的性教育を知った経緯、知識と理解の程度について具体的に調査が及んでいない。今後、専門分野・出身・年代等を考慮した、より汎用的な調査を行うことで今回の知見を今後に生かすことにつながるだろう。

今回のイベント中の活動に関して、年代、性別、国籍の面で多様な参加者が集まり、かつ自発的にイニシアティブを取る姿が見られたが、この点は、今回の参加者の個人的資質に因る影響が考えられる。また、今回は、基本的に日本語で参加者同士がコミュニケーションを取る素地が整っていたが、より広く文化的多様性を取り入れようとする場合、言語面も含めてよりよいファシリテーションを検討する必要がある。

性に関するイメージとして多く上げられた「人権」について、参加者からいくつかのコメントが挙げられている。本イベントについて、アイスブレイク部分で手指を使ったゲームを紹介する際に「5本指」という表現を用いた点や、性別を考慮したグループ分けについて配慮の余地があるというコメントが寄せられた。性教育を議論していくにあたり、DE&Iの観点をより丁寧に議論していく必要がある。

最後に、大学コミュニティを対象に活動を行った結果、対面の学生交流の機会、特に物理的な交流の場の在り方について発展の余地が見られた他、アンケートでは「日頃、大学関係でアンケートを回答する際、性別の回答欄が男女の2つしかないものをよく見かける」という声が挙げられた。今回得られた知見を、大学コミュニティでの教育・交流活動という観点からも活用していけるよう、今後の検討事項としたい。

参考文献

- 1) UNESCO Office in Harare. (2018). Comprehensive sexuality education: education for a healthy future. UNESCO Digital Library. <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000376721>
- 2) 日本性教育協会. (2019). 「青少年の性行動/日中比較研究」報告書 2019, pp. 2-3.
- 3) 「ユースから見た日本の性教育の実態調査報告書- 包括的性教育を目指して-」. (2021). https://www.plan-international.jp/youth/pdf/0630_Youth_Report_01.pdf
- 4) 文部科学省. (2022). 「学校における性に関する指導及び関連する取組の状況について」. <https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000910047.pdf>
- 5) 中华人民共和国教育部. (2021). 教育部关于印发《生命安全教育与健康教育进中小学课程教材指南》的通知. http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/s8001/202111/t20211115_579815.html
- 6) Ministerio de Educación. (2021). Resolución Viceministerial N.º 169-2021-MINEDU. <https://www.gob.pe/institucion/minedu/normas-legales/1952628-169-2021-minedu>